

令和7年度 第2回播磨町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画検討委員会 (R7.11.10開催) 意見とその対応

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応	計画案への反映等
1	・第7章 p132 うみえーる広場の写真について、噴水部分が中心となっており、全体の雰囲気が見えにくい印象があった。海を見せたい意図は理解できるが、広場全体の雰囲気が伝わる写真の方が適切ではないか。	・誰もが遊べる広場のイメージを伝えるという観点から、身近な雰囲気の写真を選んでしたが、選定については改めて検討したい。(当日回答)	第7章：p131 写真を差し替え。
2	・計画では「居住誘導区域の人口を維持する」といった表現になっているが、社会全体で人口が減少する状況において、居住誘導区域の人口を維持するとはどういうことを指すのか。	・国勢調査の推計上は、一定期間は人口維持が可能だと見込んでいるが、その後の状況については、推移を見ながら判断していく必要があると考えている。(当日回答)	—
3	・第7章 p121、p122 の表題では漢字の「暮らし」を用いている一方、第2章 p34 では「くらし」「暮らせる」などの表記が混在しているように見えるため、全体として統一した方が良いのではないか。	・ゾーン名などでは「くらし」、それ以外は「暮らし」を使っている。p34 は総合計画の文言をそのまま用いている。121、p122 の表題は漢字の「暮らし」の方が適切と判断した。(当日回答)	—
4	・都市機能誘導区域を修正した案になっているが、評価指標の1つである公共交通に関する指標の「2.6/5」という数字だけを見ても、区域の外を含めて実態が分かりにくく、区域内外で公共交通の状況がどう違うのか、数字からイメージしにくい。	・今回、居住誘導区域とそれ以外のエリアを明確に線引きした。交通空白地があること自体は認識しているが、そこに行政が税金を投じるべきかどうか、市街化調整区域にどこまで税を投入するのかについては、慎重に検討する必要があると考えている。(当日回答)	—
5	・評価指標の目標値については、現時点では具体的な数値を定めないという理解で良いのか確認したい。	・居住誘導に関する目標値は具体的な数値を設定し、都市機能誘導と交通環境づくりに関する目標値は、数値を設定せず「現状維持以上」とする。(当日回答) *居住誘導に関する目標値のうち、総合防災訓練参加者数については、「現状維持以上」から、「1,100人以上」に修正する。	第8章：p140 総合防災訓練参加者数の目標値

		(町総合戦略の KPI 目標値を参考)	
6	<ul style="list-style-type: none"> JR や山陽電鉄があり、若いときに播磨町に入ってくる際には便利だと感じるが、年齢を重ねて子どもが減ってくると状況は変化するため、公共交通に係る評価指標が現況値 2.6 のままでは良くないのではないかと感じている。タクシー券のような仕組みも含め、何らかの手当てが必要ではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通も含めて行政として投資の優先度を整理し、重点的に取り組む場所とそうでない場所を分けつつ、住民満足度などの指標も見ながら判断していきたい。(当日回答) 	—
7	<ul style="list-style-type: none"> 地図の内容自体は理解できるが、元図の解像度が悪くて読みづらく、特に第 7 章 p128 の南部地域の図が気になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図の解像度を上げる。(当日回答) 	地域づくり方針 図(拡大版)の 各図を解像度 の高い図に差 し替え 第 7 章 p118 : 北部地域 p128 : 南部地域
8	<ul style="list-style-type: none"> 2 つ目の評価指標である総合防災訓練が未来永劫続くとは限らないのではないかと。また、数値を 807 人とだけ示すより、人口に対する割合で示した方が分かりやすいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関する指標は総合計画の KPI にも含まれており、継続性がある指標として選定している。都市計画の観点からは扱いが難しい側面があるものの、住民にとってイメージしやすい指標として設定した。(当日回答) 人口に対する割合で数値化とすると 2 %程度であり、目標値としてわかりにくい印象を与えるため実数としている。 	—
9	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 章 p57 に自転車ネットワークの記載があるが、将来的には、より具体的な内容として計画に位置付けていく方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度に自転車ネットワークの計画の策定を進めているが、現時点では計画の詳細を具体化できる状況でないため、具体化できる段階で本計画に盛り込んでいきたい。(当日回答) 	—

令和7年度 第2回播磨町都市計画審議会（R7.11.20開催） 意見とその対応案

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応	計画案への反映等
1	・都市機能誘導に関する評価指標で都市機能誘導区域内における誘導施設の割合について、播磨町内の施設数が減ると割合が逆に高くなってしまったため、算出方法の見直しが必要ではないか。	・現時点では既存の施設を誘導施設として設定しているため、100%となっている。仮に誘導区域外に病院が立地した場合は届出の対象となり、その際には「土山駅周辺エリアに誘導したい」という観点から、行政として集約に向けた調整を行うことが想定される。ただし、必ず100%を維持できるかどうかは、最終的には事業者側の判断もあるため確約できるものではない。（当日回答）	—
2	・誘導施設の病院には、どのような考え方で誘導施設として設定しているのか。	・病院は医療法の規定による病床数が20床以上であるものを定義している。一方で、クリニックや診療所は、特定の地点に集約すべき性質のものではなく、日常の生活圏内に分散して存在することが望ましいと考えているため、誘導施設には含めていない。（当日回答）	—
3	・評価指標の設定について、すべて「現状維持以上」という表現になっているが、もう少し上を目指す定量的な数値で目標を設定する考え方もあるのではないか。	・人口減少が進む中で、数値を「この水準にする」と明確に定めるのは現実的に難しい部分があり、今回は「現状より良い方向へ改善していく」というトレンド目標を基本とした。（当日回答）	—
4	・第5章 p90、p91の都市機能誘導区域位置図について、以前より色が薄くなっているように見えるが、具体的にどの点をどのように分かりやすく改善したのか確認したい。	・従前資料ではどこまでが区域なのか境界が読み取りづらかったが、この図は「区域を越えると届出が必要となる」という立地適正化計画の制度運用に直結するため、道の内側や外側などの判別が確実にできるよう、境界線を明確にし、全体として視認性が高くなるよう図面を差し替えた。（当日回答）	—
5	・第4章 景観形成（p71）で「歴史と文化を感じられる、うるおいのある」と記載されているが、この「うるおい」という言葉はどのような意味合いで記載しているのか。	・こちらでの「うるおい」という表現は、水そのものではなく「みずみずしさ」や「心地よさ」を感じさせる緑化が大きな要素になる。（当日回答）	—

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応	計画案への反映等
6	<ul style="list-style-type: none"> 第5章 p90の都市機能誘導区域位置図について、図が見やすくなった一方で、ピンク色（用途地域）と誘導区域の境界が第2庁舎裏でわずかにずれている。これは何が原因なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能誘導区域を設定する際、制度運用上の分かりやすさを重視し、道路を境として区切るようにしている。ピンク色で示している近隣商業地域は、道路から一定幅（30m）を取るというルールで設定している箇所もある。図書館左上の水路付近は、地形・地物（水路）が視認性の高い境界となるため、目で見て分かりやすい線引きを優先した。その結果、用途地域の線と誘導区域の線が微妙に一致しない箇所が生じているが、運用上の分かりやすさを重視した線引きによるものである。（当日回答） 	—
7	<ul style="list-style-type: none"> 第4章 p62の「歩行者ネットワーク」について、以前は「歩行者・自転車ネットワーク」と記載されていたが、今回は「自転車ネットワーク」が外れている。今後力を入れていく分野であるなら、記載自体は残しつつ「検討を進める」という姿勢を示した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> p57（道路の項目）には、現在策定中の「自転車ネットワーク計画」に基づき、今後自転車通行空間の整備方針は明記している。ただし、自転車ネットワーク計画は現在に策定中であり、具体的な方針や路線構造を明示できる段階にない。そのため、今回の都市マスタープランでは、不確定な内容を記載することは避け、次回の改定時に、計画の具体を書き込む方針とした。（当日回答） 	—
8	<ul style="list-style-type: none"> 第4章 p57自転車ネットワークが「幹線道路」の項目に含まれているが、これは幹線道路だけを対象としているのか。 生活道路や川沿いの遊歩道などもネットワークとして考える余地があるのではないか。むしろ、幹線道路とは切り離し、「歩行者・自転車ネットワーク」として独立した項目を設けても良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在策定中の自転車ネットワーク計画は、「車依存からの脱却」を目的としており、自転車と車の分離を明確にするために、主に幹線道路を対象として検討が進んでいる。生活道路では歩行者と自転車を完全に分離することが難しいケースが多く、自転車ネットワーク計画の主対象は幹線道路という認識である。（当日回答） 	—
9	<ul style="list-style-type: none"> 第7章 p122の「生活道路」に関する記載が2つあるが、まとめて記載することはできないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路に関する2つの記載は、意図が異なるため、あえて分けて記載している。1つ目は、生活道路と幹線道路の役割は異なるが、安全 	—

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応	計画案への反映等
	<ul style="list-style-type: none"> また、その後の「道路については」で始まる箇条書き（道路路盤性状調査等）も、すでに道路の話なので、主語を改めて書く必要があるのか。 	<p>性を確保した交通処理を目指すという「考え方」を示したもの。2つ目については、カラー舗装など具体的手法を含め、歩行者・自転車の安全確保を進めるという「具体的対策」を示したものである。（当日回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「道路については」という主語は、幹線道路・生活道路と用途ごとに主語を分けて記載している構成の中で、この項目（路盤性状調査）は道路全般に関する内容であるため、主語を明確にする狙いで残している。（当日回答） 	
10	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路が二つあるうち、本荘加古線については、見直しや再検討を行うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本荘加古線については、都市計画道路の整備計画全体の進め方に合わせて見直しを検討する。特に、播磨臨海地域道路の整備が進む中で、この路線をどの位置に配置するのが適切か、整合性を図りながら検討を進めている。（当日回答） 	—
11	<ul style="list-style-type: none"> 県道明石高砂線（旧浜国道）は通勤時間帯に慢性的な渋滞が発生しており、バイパス機能を持つ道路を県に要望してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で県に要望を出す予定はないが、今後の渋滞発生状況を確認しながら適切に対応していきたい。 	—

令和7年度 第4回播磨町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画検討庁内調整会議（R8.1.23開催） 意見とその対応

No.	主な意見	意見に対する考え方、対応	計画案への反映等
1	・目標値として設定している総合防災訓練参加者数は、総合戦略のKPIでも位置づけており、庁内各課においては目標が達成できるようPRにご協力いただきたい。	・庁内各課においても住民の参加が促進されるようPR等に努める。 (当日回答)	—
2	・総合戦略の目標年次は令和12(2030)年度であるが、都市マスタープランの目標の見直し時期はどうなるのか。	・都市計画マスタープラン(立地適正化計画)の目標年次は令和14(2032)年3月であり、令和12、13年度に計画全体の見直し作業を行う見込みである。 ・総合計画等の次回見直しにおいて、総合防災訓練の参加者数について、大きな変更が生じた場合は、整合性が図れるように対応する。 ・今回の目標値のうち「居住誘導区域の人口密度」及び「都市機能誘導区域内における誘導施設数の割合」は、立地適正化計画において、国が必須としている指標となる。(当日回答)	—
3	・計画の概要版はA5版で作成するのか。	・A5版で作成予定である。 本計画検討委員会において、「いかに住民に手に取ってもらえるか」が重要であるとの意見があったことを踏まえ、手に取りやすいA5版にするとともに、表紙を柔らかいデザインとするなど、親しみやすさのある優先した構成とした。(当日回答)	—

* 主な意見内に記載のページ数は、各会議開催時のページ数であるため、現在の計画原案とページ数に誤差が生じている部分があります。